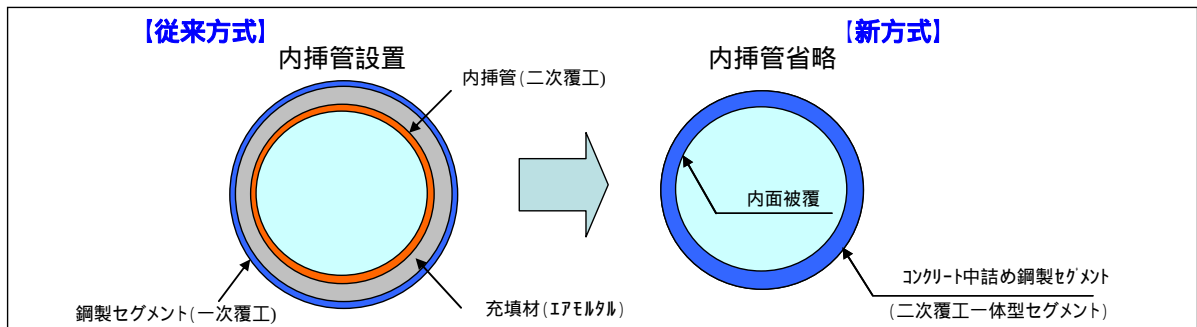


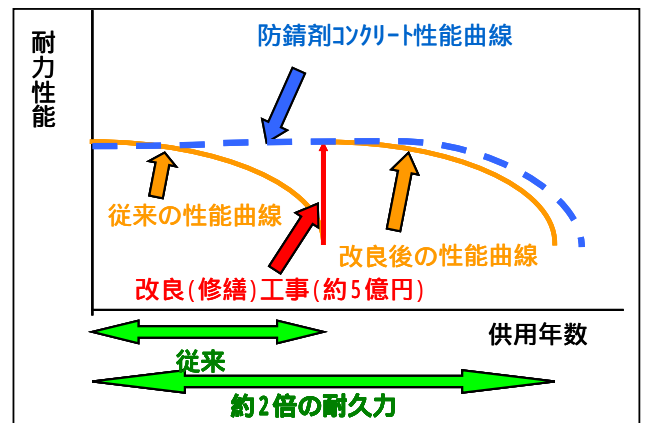
1) 公共工事コスト削減対策に関する新行動指針 関連施策

- シールド工で二次覆工を省略し、用水路工事のコスト削減(新技術の活用)
 - ・新技術を活用して二次覆工一体型セグメントを使用することにより構造・工程を簡略化。
 - ・内径は一定であるが、外径が小さくなるため、掘削量や産業廃棄物処理量が減少することで、建設コストを19.4億円から13.7億円に縮減(約29%縮減)。

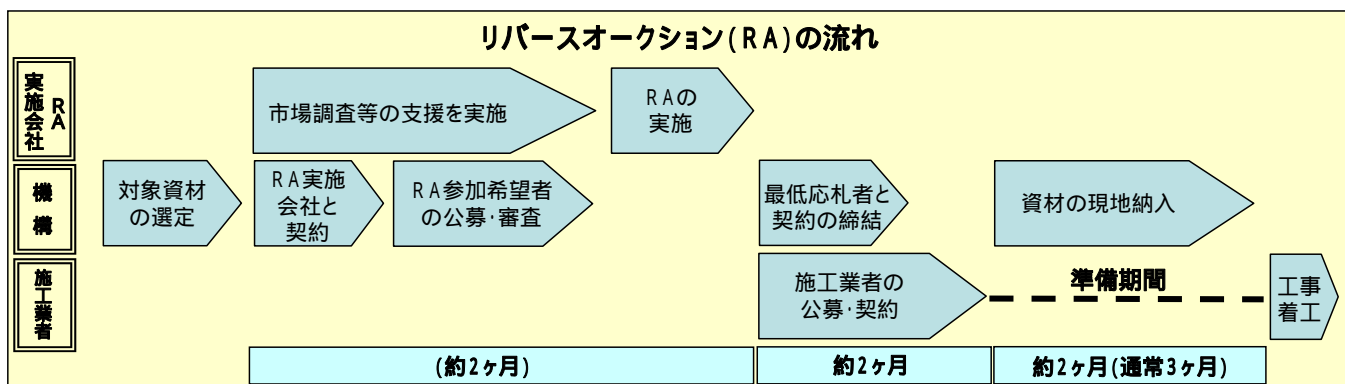


- 防錆剤を用いたライフサイクルのコスト削減(新技術の活用)

- ・ 橋橋上部コンクリートに防錆剤を使用することで鉄筋の耐久性が2倍になり、20～30年後の改良工事費の縮減が可能になることで、ライフサイクルコストを9.7億円から4.9億円に縮減(約50%縮減)。



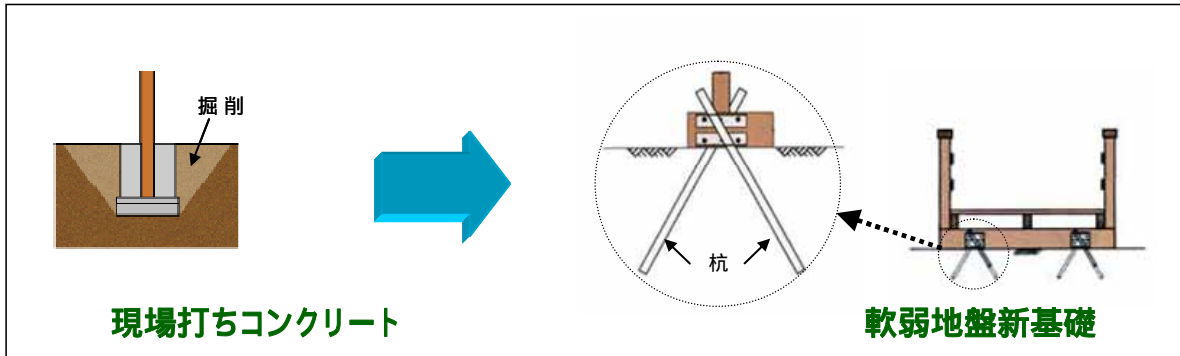
- リバースオークションを活用した建設資材の直接調達(入札・契約の見直し)
 - ・建設資材を自らが直接調達し、発注工事へ支給。
 - ・参加企業は、現在の最低入札価格などをインターネットでリアルタイムに把握しながら、一定の時間内で何度でも応札が可能となるため、価格競争の促進が図られる。(予定資材価格を約19%縮減。)



2) 公共事業コスト構造改革プログラム 関連施策

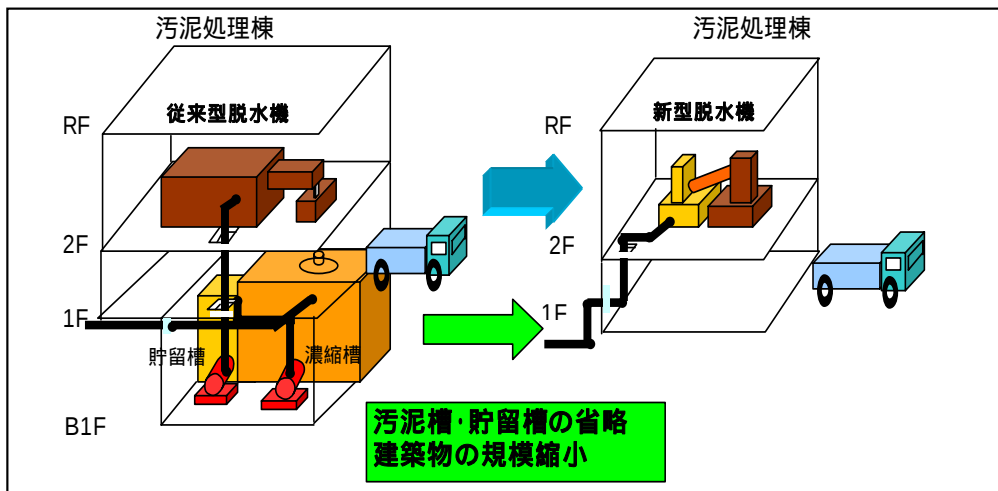
○ コスト縮減に資する設計方法の普及（設計方法の見直し）

- ・国立公園内の木道の基礎を、現場打ちコンクリートから軟弱地盤新基礎へ変更。
- ・地形改変が小規模で済み、重機を使う必要がなく、人力の施工で済むことで、建設コストを155百万円から132百万円に縮減（約15%縮減）。



○ 濃縮槽・貯留槽を省略した下水污泥脱水機の導入（設計方法の見直し）

- ・新型污泥脱水機の使用により、污泥処理を小規模処理場において可能とした。
- ・污泥処理工程に貯留槽、濃縮槽が不要となり、建築物規模の縮小化が図れることで、建設コストを約10%縮減。



○ 「ハット型鋼矢板900工法」の採用によりコスト縮減（技術開発の推進）

- ・従来製品と比較し、幅の広い鋼矢板を用いるため施工枚数が2/3に減少。
- ・施工の省力化がなされ工期短縮が可能になるとともに、建設コストを2.13百万円から1.77百万円に縮減（約17%縮減）。

